

★ 輝く先輩:「 出合った人はすべて“大切な人”」

山本真帆さん / 2013 年 3 月卒 / 英検 2 級

11

ヒューマンライツ部 部長 (中学・高校)

慶應義塾大学 総合政策学部 / 防災デザイン研究室

2015 年 8 月 ドイツ・マルティンルター大学・ハレ留学

2018 年 4 月～ 中国新聞社



11 年 7 月 福島 of 被災者と



11 年 7 月 宮城 of 被災者と



16 年 6 月 ドイツ・ハレ大学



16 年 3 月 ドイツ of 子どもたちと

(1). 中学時代「これだけはやっておく！」

先輩に学ぶ！ 盈進は中高一貫校。その利点は中学時代から高校の先輩が身近にいること。私は中学 2 年生からヒューマンライツ部で活動しましたが、当時 5 年生で部長の藤井智里先輩にとってもあこがれていました。先輩の全校集会でのスピーチを聞いて、「ステキだなあ、いつか私もあんなふうにな前で堂々と話したいなあ」と思っていました。勉強方法も先輩たちに学びました。

(2). 高校時代「これだけはやっておく！」

「授業こそ基本！」。私は放課後のクラブ活動が毎日の生きがいでしたから、その分、授業中に集中して、授業中に理解するように努めていました。

「予習・復習」は、眠たくてもやりきる！ どうしても出来ないときは、朝早く、学校でやっていました。

そして 英語の勉強！ 必ず毎日やってください！

(3). 大学時代の生活

東日本大震災から「防災学」へ！ 私が高校 1 年の 3 月 11 に東日本大震災発生。高校 2 年、部長として 7 月、私はクラブの仲間たちと原発事故に翻弄される福島と津波被害に悲しむ宮城県を訪れました。

私は、中学の時から、核廃絶の署名活動に参加していました。福島の事故は「もう誰にも同じ思いをさせてはならない」という被爆者の平和への願いが踏みにじられていると、私に問いかけました。原発や平和の問題も学びたくて、ドイツ留学を考えました。

(4). ドイツへ交換留学

語学力、議論するための知識、自分の意見を持つことの大切さを痛感。現地でヒロシマや福島について思いを発信したり、意見を交換し合ったりするなかで、多様な価値観に触れることができました。

(5). 就職活動

クラブの仲間たちと東北を訪れるきっかけをもらったのは一つの新聞記事でした。紙面からほんものの出会いにつながりました。今度は自分自身が縁やきっかけを紡いでいく人になりたいと記者を志しました。

(6). わが盈進の後輩へのメッセージ

自分で決心したことはとことんやりぬく！ そんな自分と向き合う大切な時間にしてほしいです。

出合った人はすべて、私を成長させた大切な人です！